

時事新報

第千六百六十九號
明治二十年八月廿三日 (庚申)
實丁亥七月五日

出刊時刻
午前八時三十分
午後二時三十分
午後八時三十分
西曆一千八百八十七年

社告

時事新報各地賣捌所の中に、間々前金相切れ候より新報發送方一時差止候向も有之候間、自然賣捌所の手を経て御購讀相成候御方の御迷惑に相成候事も可有之候得共、本社取引上の都合にて他に致方も無之候間、不慮御件御了察の上斯る場合には最寄りの賣捌所又は本社へ直接に御注文被成下候様仕度此段爲念購讀諸君へ申上置候也

時事新報

資本なきに非ず技師亦たなり

日本今日の鐵道事業はその機會を成して成熟するものなり數年前までは世に鐵道の功用をさへ知らずして我輩の所論を反對の人も多かりしが今日に至りては誰一人として鐵道敷設の必要を認めざる者なく日本全國の輿論この一問題に聚ると云ふも不可あらざるの有り様にして國中各所の新會社が一たび其資本と募る時は幾百萬の大金にても瞬息に成りてはせざるは或は射利投機之業に似たるの嫌なきにあらざれども然る事の實相を察するに新會社の發起人は更なり争ふて株主となる人々の目的は敢てみればより非常なる配當利益を受けんとするにあらざりて通常年に五六分位の豫算収益あるを樂みおの之に満足するもの、如し蓋し四五年来の不景氣より工商皆失敗して流通資本の用法に苦しむの折衝、苟くも五六分の収益とあれば之に向て其資本の流込むも亦自然の勢なる可し故に今日の鐵道起業を助るものは空しく無形の輿論にあらざりて社會經濟の要に出でたるものあり即ち鐵道の起るは取りも直さず經濟上不幸に候にして亦不幸の幸と云ふ可きものなり其不幸の議論は姑く擱き免に角に今日の勢にて我輩社會に於て餘りたる金圓は皆流れて鐵道の新築に注ぐと雖も獨り其工事の擧げらざるが爲め之と容るゝこと能はずして空しく海外に溢れ出ることを憾み日本鐵道會社の如きは其募集は極度に應じて工事進捗するがゆゑ可憐莫大の金額を預け金として今日の勢は唯工事の進歩と與に早く其金を消費し得ざるを是れ恐るゝ者なりと云ふ兩毛鐵道水戸鐵道なども既に工事實測に着手して事業の進み次第第一氣呵成更に後回の株金を拂ひ込む許りの支度を整ふるれども例の如く工事の進まざるが爲め其擧げ込を猶豫し置くの姿に於て其他山陽九州若しくは山形甲武等の諸鐵道會社に於て内情を聞くに大抵皆同様ならざるいなこの外政府の事業したる中仙道鐵道公債は其鐵路を東海運に當てて現在起工の際中なれ共此れも資本と工事とを比較しさらば及ばざる部分多きと必定なる可し此の如く日本今日の鐵道事業は決して資金なきを以て其工事の進まざるを以て折角の資金を以て國庫若しくは銀行の庫中より利益を得る可き資金を以て其利を得せしめず企業者は手を擧げて茫然たるのみ私け爲

めにも國の爲先にも經濟法の得たるものにはあらざる可し

昨年の今頃に在りては鐵道の議論も今日ほどに盛ならず假令へ其議論あきばとて資本の一點に疑を抱くは天下普通の人情にして當時我輩の鐵道論は餘り早急に失するなど答ひる者も多かりしやとあるが滿一箇年の経過、今日に至りては獨り資本の不足に苦しまざるものならず餘貨堆積して却て其停滯に不都合を生ずるの次第なれば之に處するの策は成るべく速かに工事を進ませる大切なる遊金を活らすの工夫一なる可し事業の種類に由りては資本は聚まるも本業の準備はざる間ハ事の行はれ難き次第もあらんか其鐵道は決して斯かるものに非ず建築に資本は充分なるに於ては工事の進まざるも無造作にて準備云々のために時月の延引を許さざるあり夫れも徐々工事進捗するときは其費用殊更に廉價なりと云ふ如き特別の事情あるならば經濟節儉の點に於て枉て速線を急ぐ可きなれども我輩は於ては工事を徐々にして何等の利益あるや之を看出すこと能はず蓋し鐵道工事に要する資本の半は内國の消費に用ひ他は外國に拂出すの區別あるが故に外國に拂出す部分を少なくして出來得るだけは日本國內に其器械を作り材料を求むるの工夫肝要ならざるを以て日本に於ては鐵道工事を進捗すること三年五年を以て其間に内地の工業進歩して需要の物品を海外に仰がざるの程度に達するならば一時の權宜工事の運滞を忍ぶるの理由あるとなれども軌條車機關車貨車客車なり此等は所詮日本にて製造の出來難き品物なれば之を西洋の供給に依頼せざるも萬一己を得ざる次第にして無理に日本にて造らば或は成るともはらんと雖も素より不消の業にして商賣上の勘定に叶はざること明白なきは是れは今も今後も數年の間は外國に仰ぐとして其他の要を枚舉すれば線路用地の買上げ築地土盛の工事或は開闢切取りの入費、枕木の代價停車場倉庫建築等皆日本内地の勤勞と材料とを以て支辨し得ざるものなく爾も近年の不景氣にて人夫の賃錢も最も廉く土工と起すには偏強無上の今日なれば此時を捨て、徒らに歲月を移すの惜むべし之に至りなすや資本充ち時機達し千端の一遇とも稱す可し有るはなるに獨り其工事の遅延として之に伴ふ能ざるは我輩一に之を技師の不足に歸せざるを得ざるあり現在鐵道の敷設工事に關係せる技師の員數を聞くに甚だしく測量師たり建築師たるに論なく東西の體一を以て忙はまく之に應ず甲の鐵道會社に測量師の測さざる間は乙れ鐵道會社も又自線の測量に着手する能はざるの始末あるは畢竟少數の測量者で以て多分の依頼に應せんとするの故ならん或は軌條敷設の事業に至りても東海運の官鐵鐵道を監督する技師の手の續ひと待て後ち之を日本鐵道會社の私鐵工事と題はせんと云ふ繁忙にして何れの會社にても測量師建築師の手明きあるまでは交るゝ其工事を中止するにせざるは蓋し起工を斷念するは之の次第なれば目下の要は先づ第一に技師

此數を増すに在りては鐵道の議論も今日より更に學生を仕立て、日本人の技師を作り出さんとするは實際の間に合ふべし之にもあらんか去迎今の少數の技師を東より西より争ふて用ひんとするも數計許さざる所なり左れば此上の策は塞向日本製の製造は叶はざる物品を外國に仰ぐと同様の趣意に従ひ我國乏き技師の供給も外國に依頼せざるに外なる可し既に之を雇入れて各其受持の區域に監督の勢を取らしめ日本在來の技師と力を聚はせて工事の竣成を急ぎたらば功を收むる容易にして今日れ如く測量建築運送のため各所所鐵道會社が其頭を病ましむるの不都合もなかるべきなり或は西洋人と雇入たらば夫れだければ俸給を損するの勘定あらんかと云ふ論者もあらんか總て鐵道事業の費用中、技師の俸給の如く之に誠一小部分の事に於て計算にも乘らざるの次第なるは實地家の知る所も夫れより今日の日如く國庫若しくは銀行に莫大の鐵道資本と遊ばせ置くの利息も徒損なれと我輩は敢て此流の論者に答へんと欲するものあり

官報

○大藏省告示第百十九號
明治十三年(六月)第三十一號公布ニ據り備荒儲蓄補助
金二十一年度配付額左ノ通
明治二十年
八月二十二日
大藏大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯耆山縣有朋
大藏大臣伯耆山縣有朋

東京府	一、一〇〇、〇〇〇	東京府	一、一〇〇、〇〇〇
神奈川府	一、一〇〇、〇〇〇	神奈川府	一、一〇〇、〇〇〇
大阪府	一、一〇〇、〇〇〇	大阪府	一、一〇〇、〇〇〇
京都府	一、一〇〇、〇〇〇	京都府	一、一〇〇、〇〇〇
兵庫縣	一、一〇〇、〇〇〇	兵庫縣	一、一〇〇、〇〇〇
長崎縣	一、一〇〇、〇〇〇	長崎縣	一、一〇〇、〇〇〇
新潟縣	一、一〇〇、〇〇〇	新潟縣	一、一〇〇、〇〇〇
埼玉縣	一、一〇〇、〇〇〇	埼玉縣	一、一〇〇、〇〇〇
茨城縣	一、一〇〇、〇〇〇	茨城縣	一、一〇〇、〇〇〇
群馬縣	一、一〇〇、〇〇〇	群馬縣	一、一〇〇、〇〇〇
栃木縣	一、一〇〇、〇〇〇	栃木縣	一、一〇〇、〇〇〇
三重縣	一、一〇〇、〇〇〇	三重縣	一、一〇〇、〇〇〇
愛知縣	一、一〇〇、〇〇〇	愛知縣	一、一〇〇、〇〇〇
靜岡縣	一、一〇〇、〇〇〇	靜岡縣	一、一〇〇、〇〇〇
山梨縣	一、一〇〇、〇〇〇	山梨縣	一、一〇〇、〇〇〇
滋賀縣	一、一〇〇、〇〇〇	滋賀縣	一、一〇〇、〇〇〇
岐阜縣	一、一〇〇、〇〇〇	岐阜縣	一、一〇〇、〇〇〇
内、一、一〇〇、〇〇〇		内、一、一〇〇、〇〇〇	

○郵便物行差流失
○函館省告示第百四號
○函館省告示第百四號
○函館省告示第百四號